



依存症

## 依存症低減

## 安心・安全にお楽しみいただくために

## P 遊技機事業における依存症対策

## 電話相談機関

## 「リカバリーサポート・ネットワーク」への支援

2003年のぱちんこ依存問題研究会の発足を契機に、のめり込みに関する対策を開始しました。2006年には、業界団体の支援によって「リカバリーサポート・ネットワーク(RSN)」が設立され、啓発活動や電話相談などの幅広い取り組みを展開しています。

## パチンコ・パチスロ依存問題啓発週間の取り組み

毎年、5月14日から20日はパチンコ・パチスロ依存問題の啓発週間です。業界団体では、この啓発週間を中心に、問題についての理解を広げるためフォーラムを開催するほか、啓発週間をお知らせするポスターの掲示などの活動を行っています。当グループは、こうした取り組みに賛同し、業界の健全な発展に貢献していきます。

## 遊技機業界のこれまでの取り組み

- 2003 ● ぱちんこ依存問題研究会発足
- 2006 ● リカバリーサポート・ネットワーク(RSN)設立
- 2017 ● パチンコ・パチスロ依存(のめりこみ問題)に対する声明発表
- 2018 ● 改正規則に適合する遊技機入れ替え
  - パチンコ・パチスロ産業依存対策有識者会議(第三者委員会)発足
- 2019 ● パチンコ依存問題対策基本要綱策定
  - パチンコ・パチスロ産業依存問題対策要綱策定
- 2020 ● 全日本遊技事業協同組合連合会全国理事会において警察庁から依存対策推進への期待と協力の要請



## E エンタテインメントコンテンツ事業におけるゲーム障害への対応

世界保健機関(WHO)年次総会(2019年5月)において、オンラインゲームやテレビゲームの過度なプレイによる、「ゲーム障害」が新たに疾患として認定されました。

一般社団法人コンピュータエンターテインメント協会(CESA)、一般社団法人日本オンラインゲーム協会(JOGA)、一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム(MCF)、一般社団法人日本eスポーツ連合(JeSU)のゲーム関連4団体では、ゲームプレイにより引き起こ

される事象に関する調査・研究およびゲームの楽しみ方に関する啓発などを推進する4団体合同検討会を設置しました。

現在4団体合同検討会では、外部有識者の研究会と連携してゲーム障害についての調査研究を進めており、今後効果的な対策の検討なども進めます。当グループは、4団体合同検討会と連携しながら適切な対応を行ってまいります。

## SS 安心・安全なIR施設開発・運営に向けて(ギャンブル依存症についての産学共同研究)

セガサミーホールディングスと国立大学法人京都大学は、ギャンブル行動の遷移に関するデータの収集と分析を通じて、ギャンブル依存症のプロセス研究<sup>\*</sup>を産学共同で実施しています。

本研究は、カジノ施設におけるプレイヤーのプレイデータを収集・分析することにより、人が危険な賭けに至る前の兆候を明らかにすることを目的として実施します。当グループでは本研究成果と結びつけることにより、依存症の兆候が見られるプレイヤーを早期に発見し、深刻化を未然に防ぐ仕組みの確立を目指します。あわせて施設利用時における自制・抑制を促す施設オペレーションを確立することで、啓発・予防から医療機関などによる治療との連携まで一

貫した体系的なギャンブル依存症対策の構築を目指します。

本研究からは、ギャンブルに繰り返し興じることで、勝敗の結果によらず、賭け金を増やしていく傾向があること、またこの傾向は勝った後でより顕著であることが明らかとなりました。また、勝ちを重ねていくことで、リスクな賭け方であっても、賭けに参加する割合が増えていくことも明らかとなりました。この論文は「International Gambling Studies」に掲載されました。

<sup>\*</sup>本共同研究は、京都大学こころの未来研究センターにおいて、2017年12月から2023年3月まで実施予定